

人・農地プランとは

人・農地プランとは、農業者が話し合いに基づき、地域で農業において中心的な役割を果たすことが見込まれる農業者（中心経営体）や地域における農業の将来の在り方などを明確化し、市町により公表されるもので、人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」です。平成24年に開始され、農地中間管理事業の円滑な推進を図るための手段として位置付けられています。管内では全ての市町で取り組まれ、定期的に見直しが行われています。

人・農地プランの実質化のためには

地域を支えてきた担い手の高齢化や農業の担い手不足が心配される中、この人・農地プランを真に地域の話合いに基づくものにするために、①アンケートの実施、②地域の状況の地図化、③地域の徹底した話し合いにより、「将来にわたって地域の農地を誰が担っていくのか」、「誰に農地を集積・集約化していくのか」などの皆さんの想いがつまった将来方針を作成したものが、「実質化された人・農地プラン」です。

皆さんがこれまで営々と築き上げてこられた地域の農業・農地を、それを取り巻く伝統や文化、自然景観などと一緒に、子供や孫の世代にしっかりと引継ぐために、「人・農地プランの実質化」に取り組みましょう。



水田汎用化と将来の農業を考える会の取り組み(諫早市目代地区土地改良組合)

諫早地域
普及課

諫早市目代町では、平成27年度に約20haの圃場整備が完成し、作業の効率性が良くなった水田で所得向上を目指し、稲作のほか野菜の作付けを計画しています。

当地区は、今まで水田裏作をほとんど行っておらず、農業者は野菜を水田で栽培することに不安を感じていましたが、試験的に高畝や額縁明渠などを行いキャベツを栽培した結果、水田でもますますの収量を上げることができました。

今年度は、キャベツのほかブロッコリーおよび麦の栽培試験も行い、栽培の確立と面積拡大を目指しています。

また、担い手確保と農地を守っていくため、「目代の将来の農業を考える会」を立ち上げ、アンケート調査などを行いながら、将来の農業と地域活性化を話し合い、具体的な将来ビジョン作成と合意形成を目指しています。



キャベツの定植作業



キャベツ生育状況